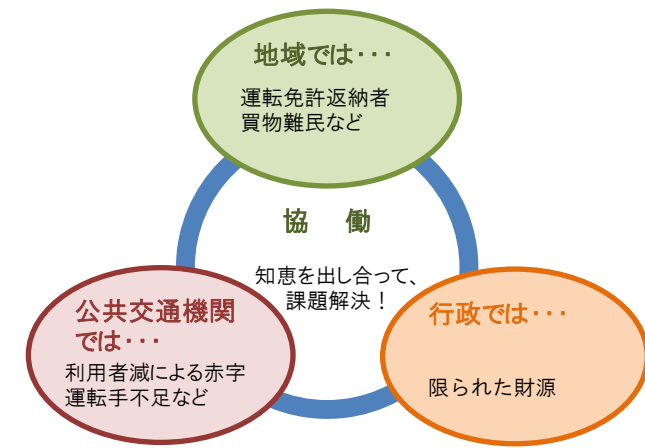
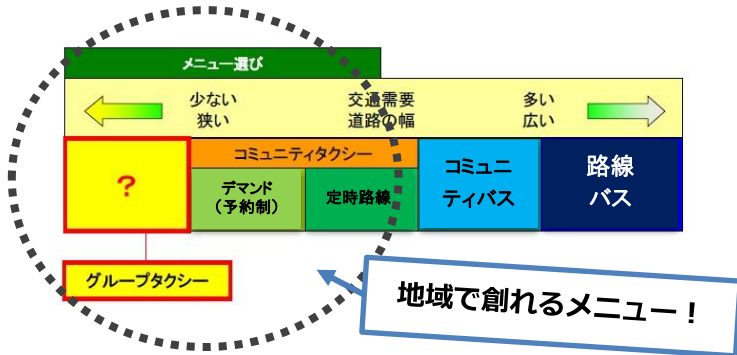


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券...65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券...障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券...要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証...70歳以上、市内の路線バスに限り乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の2/3以内、
補助限度額70万円

詳細は、山口市
交通政策課まで
お問い合わせく
ださい!

創ろう!守ろう!みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

阿 東 編
平成29年5月発行



~安心して住み続けられる
~交通まちづくりをめざして~

参加者アンケートより<11名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか?

- ①深まった 7人
- ②どちらともいえない 3人
- ③深まらなかった 1人

Q公共交通を利用しよう

- ①引き続き利用する 3人
- ②これからは利用する 1人
- ③わからない 6人
- ④利用しない 1人

Q公共交通を守る必要を

- ①感じた 10人
- ②どちらともいえない 1人
- ③感じない 0人

Q地域での話し合いの必!

- ①感じた 9人
- ②どちらともいえない 2人
- ③感じない 0人

【感想(抜粋)】

- 高齢化が進む中、集落の維持も困難である。よって、ある程度の拠点から都市部へ、集落から拠点までの手段を考慮してほしい
- 市民、地域民ファーストに配慮した計画が望ましい
- 机上論ではなく実情に即した配慮が必要と思う。また、聴取だけではだめです
- 重なっている便の時刻や、スクールバス、通院バスの有効活用が必要と感じた
- 若い人の参加がもう少しあると良い
- 今後とも幅広く市民を集めてほしい
- 年齢層での意見が相違すると思われる。各層での意見集約が必要と感じました
- 会場の意見が一つでも実現できればと願っています。検討会は続けてほしいです

今後に向けて地域の話し合いを応援します!
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月23日（木）阿東地域交流センターにおいて、13名の参加のもと、地域検討会を開催しました。

最初に山口市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきたいと思います。

■現状をわかちあう！■

- ▶ 脱！車社会
 - 職員の駐車場は有料にすべき
 - 車前提の社会になっている
 - 都会の人は歩くからスリム体型
- ▶ 不便
 - 荷物があると車しか無理
 - 山口へのバスの直通便がない
 - 山口への三谷でのバスの乗継が不便
 - 通院バスで買物できない
 - 運行本数が少ない
 - 生活バスの路線を見直して欲しい
 - バス停や駅まで遠い
 - 停留所での待ち時間が長くて不便
 - JRとバスの時間配分
 - 運行状況が分からない
- ▶ タクシー
 - タクシー料金が安い
 - 台数が少ない
- ▶ グループタクシー
 - 距離要件を700mより短くしてほしい
- ▶ 免許返納したいのに...
 - 90才くらいまで運転する人も
 - 高齢者にやさしい公共交通を



なぜ今公共交通なのか...
 現在車を運転している人のうち、4人に3人は将来運転し続けることに不安を感じているという統計結果がある。マイカー依存社会は無理の上に成り立っている。
 5年後・10年後に向けた公共交通への期待は大きい。しかし「今」はクルマの運転に困っていないところに課題。
 今、5年先のことを考えて行動しなければ。
 ・山口市民の7割が1年1回(1,000円)公共交通を利用するだけで守れる！
 ・クルマは乗らなくても1日約1,700円かかる(購入費、税金、保険、車検、駐車場代)
 送迎にしても、高齢者が高齢者を送迎しているという現実。
 今、車に頼った状態で、さらにこのまま5年後、10年後迎えるとなると、本当に不安を感じている方が動けなくなってしまう。

公共交通を考えることは、まちづくりを考えること。
 われわれ専門家も全力で応援します！



交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏

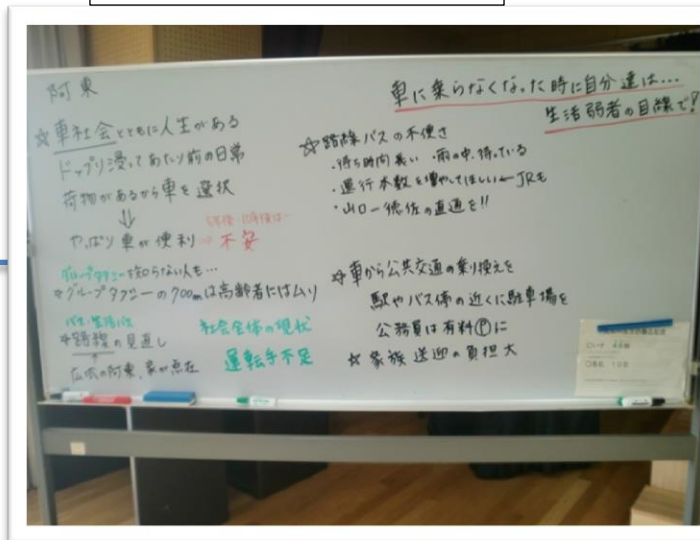
難しい問題はいろいろあるけれども...

まずは、細かなことでも出来ることから取り組んでみる。

新たな発想を。私たちも一緒に考えます！！

■アイデアいろいろ■ できたらいいな

- 駅やバス停に車を停める場があれば...
- 電動カーでいける範囲に生活拠点を
- バスと鉄道の運行時間帯がだいたい同じなので、ずらせられないか
- JR特急料金の割引
- スクールバスの活用

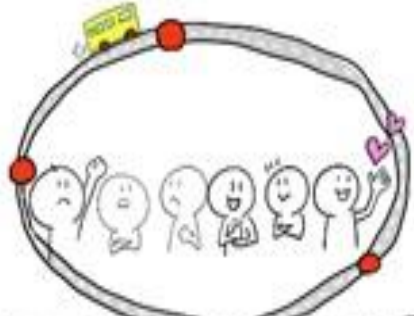


基幹交通(バス・鉄道)の利用促進の啓発！
 地域ニーズの把握！
 地域での話し合い！

クルマがないと生活できない山口から
 クルマがなくても生活できる山口へ

～誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり～

- 公共交通は社会のインフラ
 - ・公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
 - ・誰もが自分の意思で移動できるように(高齢者・子育て世代・高校生)
- 集い歩くことが賑わいに
 - ・生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
 - ・多少の不便も「健康増進」と割り切る
- こどもの教育
 - ・こどもの社会との関わりが増す



みんなで創る
 持続できる
 地域の交通！

